

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0006  
 住 所 川崎市川崎区砂子一丁目8番地1川崎室町ビル  
 氏 名 出光ルブテクノ 株式会社  
 代表取締役社長 鈴木 忠

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	出光ルブテクノ株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区砂子一丁目8番地1 川崎室町ビル		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	17	石油製品・石炭製品製造業
主たる事業 の内容	潤滑油の貯蔵・製造・出荷		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,870	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>

## (第2面)

計 画 期 間	2019 年度 ~ 2021 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。

3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。

4 ※印の欄は記入しないでください。

5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策計画

### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

#### (1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

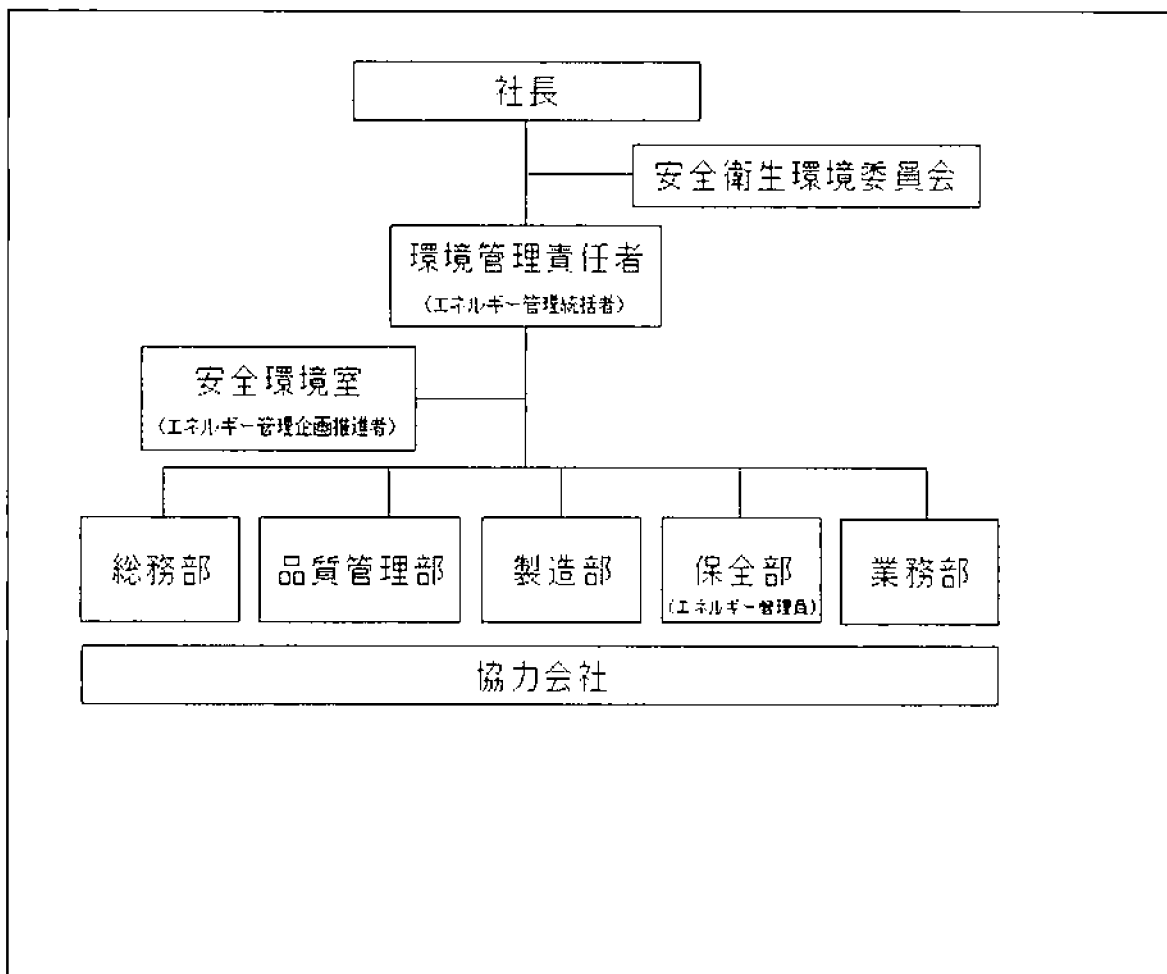
当社は潤滑油原料の基油及び添加剤を受入、潤滑油製造を行っており、これに関わる設備の設計・建設、生産、購買、入出荷、分析試験サービス等の全ての業務に関し、「環境方針」以下と定める。

1. 「環境にやさしい事業所」を目指し、すべての業務に関わる環境管理システムの継続的改善に努めます。
2. 環境関連法規の順守はもとより、自主的取り組みにより環境汚染の予防及び環境保全に努めます。
3. 投入エネルギー効率を最適とするよう、省エネルギーに努めます。
4. 廃棄物の削減及び資源の有効利用に努め、ゼロエミッションの事業所を目指します。
5. 環境管理活動推進の為、環境目標を設定して、その達成に努めます。更に、環境管理システムとともにこれを定期的に見直し、環境パフォーマンスの継続的な工場を図ります。

#### (2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（P D C A サイクル）を行うための方針

- ① ISO14001に基づき、環境目標と年度計画を策定する。(PLAN)
- ② 環境目標、年度計画の進捗管理およびエネルギー使用量実績は毎月開催する安全衛生環境委員会で評価する。(CHECK/ACTION)
- ③ 年度末に、エネルギー使用量及び目標達成状況から次年度の目標、計画に反映する。以上の基本方針により P D C A サイクルを実行・管理する。(DO)

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（(実)は実排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
基準	年度	2018	
年度			
目標	年度	2021	
年度			
基準	排出量	(実) 4,000 (調) 4,777 t-CO <sub>2</sub>	(実) (調) t-CO <sub>2</sub>
目標	排出量	(実) 4,164 (調) 5,009 t-CO <sub>2</sub>	(実) (調) t-CO <sub>2</sub>
削減	量	(実) -164 t-CO <sub>2</sub>	(実) t-CO <sub>2</sub>
内訳	対策実施による削減量	(実) 20 t-CO <sub>2</sub>	(実) t-CO <sub>2</sub>
	上記以外の削減量	(実) -184 t-CO <sub>2</sub>	(実) t-CO <sub>2</sub>
削減	率	(実) -4.1 %	(実) %

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
原単位等	の活動量	製造数量	
原単位	の単位	t-CO <sub>2</sub> /千kℓ	
基準	年度の値	21.91	
目標	年度の値	21.26	
削減	率	3.0 %	%

ウ 目標設定に関する説明

<p>現状親会社と連携した増産プロジェクトが立ち上がっている中で、温室効果ガスの排出量増加は免れない状況である。そこで、温室効果ガスの排出量原単位の削減を図る為、エネルギーの原単位の値を年平均1%削減する事を前提とした目標値とした。</p> <p>生産方法の視点からみると、比較的エネルギー使用の少ない大型タンクでの製造に増産分が割り当てられれば、所内エネルギー消費は抑えられることができる為、すなわち原単位の削減につながるものと捉えている。※尚、原単位の活動量を事業所全体で一つにできないが京浜事業所排出に対し、本社排出量は極めて小さい数値の為、本目標値は京浜事業所の数値を採用する。</p>
---

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

--

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容(別表第1から6等を参考に記載してください。)

計 画	<p>【01-02-02】エネルギー使用量等の把握・計測・記録の管理          ・令和1~2年でコンプレッサの更新を予定しており、その一環で監視PCの導入を実施する。</p> <p>【06-01-06】コンプレッサの新設における措置          ・令和1~2年からでコンプレッサを更新する。その際は回転数制御機を導入し、変流量システムを採用する。</p> <p>【26-01-03】照明設備の更新における措置          ・本館エリアの照明をLEDへ更新する。※時期・台数は現状未定。</p>
第1年度	/
第2年度	/
第3年度	/
計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)	/

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

--

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	○	危険物施設であることの制約と設置スペースの問題で困難と判断。
風力	○	設置スペースの問題で困難と判断。
バイオマス	○	同上
未利用エネルギー	×	
その他( )		
その他( )		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	△
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他( )	
EV、PHV、FCV	×	その他( )	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	なし
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	<p>所内の省エネルギー対策として、安全衛生環境委員会を立ち上げた。この委員会を通じて、エネルギーの運用ルールの策定、動向監視、施策立案・実行を実施している。また、当議事録を社内サイトへ掲示し、社員への意識付け・向上を目指している。</p> <p>【01-02-01】 (3) 主要設備等の管理標準を定期的に見直し、改善を図る。                  【01-01-01】 (6) 温室効果ガスの排出の抑制に対する情報の周知。                  【01-02-01】 (4) 設備単位によるきめ細かいエネルギー管理等を徹底。                  具体的には、コンプレッサーとボイラー。</p>
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出量

(実)	4,000	t-CO <sub>2</sub>
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

1,870	KL
-------	----

ウ 事業所の数

2
---

(2) 事業所等单位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量
出光興産京浜ルブセンター	川崎市川崎区水江町6番2号	3,942 t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>